

別記様式第2号 別添

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID1122033

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会 浅野浦漁協部会
代表者名	部会長 西尾 満義

再生委員会の構成員	浅野浦漁業協同組合、淡路市、兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	兵庫県淡路市浅野地域 ノリ養殖業 9名、わかめ養殖業 1名 小型底びき網漁業 33名 刺網漁業等 9名 合計延べ 52名 (漁業者 42名)
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区は、兵庫県淡路市の西部、播磨灘側に位置し、四季を通じて様々な魚介類が水揚げされており、漁獲される魚種は「タコ」がもっとも多く、ついでマダイ、ハモなどとなっており、水揚げされる魚種は15種類を超える。水揚げされた魚介類は、漁協の荷捌き施設において競りに掛けられ、大阪・神戸などの市場に出荷される。平成10年の明石海峡大橋開通により消費地に近接する好立地となったことも特徴である。

近年の漁業の現状は、海洋環境の変化による漁獲量の減少や魚離れによる消費量の減少、仲買人の取扱量の減少等、様々な要因によって魚価の低下が進行している。

当地区では、古くからノリの養殖漁業が盛んであり、地域内で生産されるほとんどが業務用として流通している。また、近年は、ワカメ養殖漁業も事業化されているが、養殖海域の栄養塩の低下により色落ちが発生し、生産したノリ及びワカメの品質が低下することにより生産量が減少し生産金額が減少するなど不安定な状況にある。

当地区の共販市場では、漁獲物の水揚げ前に仲買業者が入札したい魚種、数量、単価を漁協に通知し、水揚げ前に落札者が決定している「大札」と呼ばれるシステムが主流であり、市場では、各漁業者が水揚げした漁獲物を漁協職員が再度選別し直して計量後に落札者に引き渡す作業を行っており、正確な漁獲物の数量把握ができる反面、非効率であることが課題となっている。

近年は漁業用資材や燃油価格の高騰し漁業経費の増加により、漁船漁業、ノリ・ワカメ養殖漁業の経営を圧迫している。また、漁業者の高齢化による後継者不足も大きな問題となっている。

(2) その他の関連する現状等

- ・今後 30 年以内に発生する南海トラフ地震に対する災害対策が進んでいない。
- ・漁業組合施設及び機器の老朽化に伴い、維持経費の増大により組合経営に支障をきたしている。
- ・平成 7 年に発生した阪神・淡路大震災以降、漁業集落が過疎・高齢化により、「にぎわい」がない。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

Blank box for reporting results and issues from the previous plan.

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

浅野地域の水産業の発展及び活力ある漁村の実現のため、当プランの推進により、当再生委員会構成員は以下の取組を行い、漁業収入向上及び漁業コスト削減をはかる。

- 漁業収入向上のための取組
 - ・ノリ・ワカメの品質向上
 - ・魚価の向上

・ 漁場環境の保全と資源量の増大

● 漁業コスト削減

- ・ 省燃油活動の推進
- ・ 省エネ機器の導入
- ・ 燃油急騰に対する備え

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁獲努力量の削減等については、漁獲物の体長制限、操業時間の制限、休漁等を実施している。また、ノリ養殖については兵庫県のり養殖漁場改善計画に基づく生産対策等を遵守している。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度（2019年度））所得2%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1 ノリ・ワカメの品質向上</p> <ul style="list-style-type: none">・ 藻類養殖業者は、漁業者の減少により漁場の利用が従来より柔軟に対応できる状況であるため、養殖ノリ・ワカメへの栄養塩の巡りが良好になるよう、空いた漁場を活用し養殖枠の間隔を広げて色落ち被害を抑制し、品質の維持向上に努める。 <p>2 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小型底びき網漁業者は、1回あたりの曳網時間をこれまでの約40分から10分短縮し、マダイ、タコ類、カレイ類、ハモ等の漁獲物が網ズレなどにより低下する活力をより高い状態で保持し、単価の高い活魚として販売することに努める。（この取り組みにより1回あたりの曳網時間は短縮されるものの、1日の操業時間に対する曳網回数は増えることから漁獲量の大幅な増減は発生しない。） <p>特に高級魚であるマダイについて、漁業者は、「1枚の鱗もはがさない」をテーマに水揚げ時には1匹ずつ手作業で取り扱い、荷さばき所の水槽に活かしたまま移す。同じく高級魚のハモについても、水揚げ時には数匹ずつ籠にいれ、水槽に活かしたまま移す。</p> <p>この取組により、漁協は、丁寧に取ったタイ・ハモを「浅野のタイ・ハモ」と銘打って認知度を高めるとともに流通量（出荷量）の増大を図るため、これまで3段階程度の大まかなサイズ選別と入札時に魚体確認を行なわない「大札」で入札していたマダイ・ハモについて、市場価格が特に高く取引される1~2kgサイズの品質の良いマダイ、同じく0.6~1kgサイズの品質の良いハモに特化して、従来の「大札」とは別に優先して選別する。また、入札方法も仲買業者が漁獲物を確認する「見買い」に変更して販売を行なうことで、品質の良い漁獲物を要求する大都市圏の高級魚取扱店舗への流通量を増大させることによって魚価の向上を図ることを検討する。</p> <p>底びき網漁業者は、当地区で最も漁獲量の多いタコについて、1日で大量に獲れる時には、入札までに船内の魚槽で活力が低下したり斃死することがあるため、操業中に一旦帰港し岸壁等の活け網にて保管することで斃死や活力低下を防止させ、活魚出荷量を増大させる。</p>
--------------	--

	<p>また、漁協は、タコの大量漁獲により単価の下落が著しい場合は、値崩れを防止するため、漁獲量制限等 1 人当たりの出荷量調整を行なうことを関係漁業者と検討する。</p> <p>また、底びき網や刺網等で漁獲されるタコ類、マダイ、カレイ類、スズキ、イカ類をはじめとした全魚種について、漁業者は、漁船上での規格外の傷物や活力の低下したものなど品質の悪い魚の目視選別を徹底したうえで共販市場にかけ、市場作業の効率化（選別等荷さばき作業時間の短縮）により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して進める。</p> <p>3 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員が参加し、海底耕耘の作業を行うことにより、栄養塩低下の対策として漁場環境の保全にかかる活動を推進する。また、全漁業者は、ヒラメやオニオコゼ、マコガレイ、クルマエビ、ガザミの種苗放流等の栽培漁業や資源管理等の取り組みに参加し、資源の増大を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>1 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員は、漁場までの減速航行、定期的な船底清掃及び船の上架を行い、燃油消費量を削減する。 <p>2 競争力強化型機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型底びき網漁業者及びのり養殖業者のグループは、競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用して、現在使用中の機関より 10%以上燃油消費量を削減できる省エネ機関に換装する。 <p>3 燃油急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの増大に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進する。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁獲共済

2 年目（平成 32 年度（2020 年度））所得 4% 向上

漁業収入向上のための取組	<p>1 ノリ・ワカメの品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藻類養殖業者は、漁業者の減少により漁場の利用が従来より柔軟に対応できる状況であるため、養殖ノリ・ワカメへの栄養塩の巡りが良好になるよう、空いた漁場を活用し養殖枠の間隔を広げて色落ち被害を抑制し、品質の維持向上に努める。 <p>2 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型底びき網漁業者は、1 回あたりの曳網時間をこれまでの約 40 分から 10 分短縮し、マダイ、タコ類、カレイ類、ハモ等の漁獲物が網ズレなどにより低下する活力をより高い状態で保持し、単価の高い活魚として販売することに努める。（この取り組みにより 1 回当たりの曳網時間は短縮されるものの、1 日の操業時間に対する曳網回数は増えることから漁獲量の大幅な増減は発生しない。） 特に高級魚であるマダイについて、漁業者は、「1 枚の鱗もはがさない」をテーマに水揚げ時には 1 匹ずつ手作業で取り扱い、荷さばき所の水槽に活かしたまま移す。同じく高級魚のハモについても、水揚げ時には数匹ずつ籠にいれ、水槽に活かしたまま移す。 この取組により、漁協は、丁寧に取扱ったタイ・ハモを「浅野のタイ・ハモ」と銘打って認知度を高めるとともに流通量（出荷量）の増大を図るため、これまで 3
--------------	--

	<p>段階程度の大まかなサイズ選別と入札時に魚体確認を行なわない「大札」で入札していたマダイ・ハモについて、市場価格が特に高く取引される1~2kgサイズの品質の良いマダイ、同じく0.6~1kgサイズの品質の良いハモに特化して、従来の「大札」とは別に優先して選別する。また、入札方法も仲買業者が漁獲物を確認する「見買い」に変更して販売を行なうことで、品質の良い漁獲物を要求する大都市圏の高級魚取扱店舗への流通量を増大させることによって魚価の向上を図ることを検討する。</p> <p>底びき網漁業者は、当地区で最も漁獲量の多いタコについて、1日で大量に獲れる時には、入札までに船内の魚槽で活力が低下したり斃死することがあるため、操業中に一旦帰港し岸壁等の活け網にて保管することで斃死や活力低下を防止させ、活魚出荷量を増大させる。</p> <p>また、漁協は、タコの大量漁獲により単価の下落が著しい場合は、値崩れを防止するため、漁獲量制限等1人当たりの出荷量調整を行なうことを関係漁業者と検討する。</p> <p>また、底びき網や刺網等で漁獲されるタコ類、マダイ、カレイ類、スズキ、イカ類をはじめとした全魚種について、漁業者は、漁船上での規格外の傷物や活力の低下したものなど品質の悪い魚の目視選別を徹底したうえで共販市場にかけ、市場作業の効率化（選別等荷さばき作業時間の短縮）により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して進める。</p> <p>3 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員が参加し、海底耕耘の作業を行うことにより、栄養塩低下の対策として漁場環境の保全にかかる活動を推進する。また、全漁業者は、ヒラメやオニオコゼ、マコガレイ、クルマエビ、ガザミの種苗放流等の栽培漁業や資源管理等の取り組みに参加し、資源の増大を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員は、漁場までの減速航行、定期的な船底清掃及び船の上架を行い、燃油消費量を削減する。 <p>2 競争力強化型機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型底びき網漁業者及びのり養殖業者のグループは、競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用して、現在使用中の機関より10%以上燃油消費量を削減できる省エネ機関に換装する。 <p>3 燃油急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの増大に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁獲共済</p>

3年目（平成33年度（2021年度））所得6%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 ノリ・ワカメの品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藻類養殖業者は、漁業者の減少により漁場の利用が従来より柔軟に対応できる状況であるため、養殖ノリ・ワカメへの栄養塩の巡りが良好になるよう、空いた漁場を活用し養殖枠の間隔を広げて色落ち被害を抑制し、品質の維持向上に努める。 <p>2 に魚価の向上</p>
---------------------	---

	<p>・小型底びき網漁業者は、1回あたりの曳網時間をこれまでの約40分から10分短縮し、マダイ、タコ類、カレイ類、ハモ等の漁獲物が網ズレなどにより低下する活力をより高い状態で保持し、単価の高い活魚として販売することに努める。(この取り組みにより1回あたりの曳網時間は短縮されるものの、1日の操業時間に対する曳網回数は増えることから漁獲量の大幅な増減は発生しない。)</p> <p>特に高級魚であるマダイについて、漁業者は、「1枚の鱗もはがさない」をテーマに水揚げ時には1匹ずつ手作業で取り扱い、荷さばき所の水槽に活かしたまま移す。同じく高級魚のハモについても、水揚げ時には数匹ずつ籠にいれ、水槽に活かしたまま移す。</p> <p>この取組により、漁協は、丁寧に取扱ったタイ・ハモを「浅野のタイ・ハモ」と銘打って認知度を広めるとともに流通量(出荷量)の増大を図るため、これまで3段階程度の大まかなサイズ選別と入札時に魚体確認を行なわない「大札」で入札していたマダイ・ハモについて、市場価格が特に高く取引される1~2kgサイズの品質の良いマダイ、同じく0.6~1kgサイズの品質の良いハモに特化して、従来の「大札」とは別に優先して選別する。また、入札方法も仲買業者が漁獲物を確認する「見買い」に変更して販売を行なうことで、品質の良い漁獲物を要求する大都市圏の高級魚取扱店舗への流通量を増大させることによって魚価の向上を図ることを検討する。</p> <p>底びき網漁業者は、当地区で最も漁獲量の多いタコについて、1日で大量に獲れる時には、入札までに船内の魚槽で活力が低下したり斃死することがあるため、操業中に一旦帰港し岸壁等の活け網にて保管することで斃死や活力低下を防止させ、活魚出荷量を増大させる。</p> <p>また、漁協は、タコの大量漁獲により単価の下落が著しい場合は、値崩れを防止するため、漁獲量制限等1人当たりの出荷量調整を行なうことを関係漁業者と検討する。</p> <p>また、底びき網や刺網等で漁獲されるタコ類、マダイ、カレイ類、スズキ、イカ類をはじめとした全魚種について、漁業者は、漁船上での規格外の傷物や活力の低下したものなど品質の悪い魚の目視選別を徹底したうえで共販市場にかけ、市場作業の効率化(選別等荷さばき作業時間の短縮)により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して進める。</p> <p>3 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <p>・漁業者全員が参加し、海底耕耘の作業を行うことにより、栄養塩低下の対策として漁場環境の保全にかかる活動を推進する。また、全漁業者は、ヒラメやオニオコゼ、マコガレイ、クルマエビ、ガザミの種苗放流等の栽培漁業や資源管理等の取り組みに参加し、資源の増大を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 省燃油活動の推進</p> <p>・漁業者全員は、漁場までの減速航行、定期的な船底清掃及び船の上架を行い、燃油消費量を削減する。</p> <p>2 競争力強化型機器の導入</p> <p>・小型底びき網漁業者及びのり養殖業者のグループは、競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用して、現在使用中の機関より10%以上燃油消費量を削減できる省エネ機関に換装する。</p> <p>3 燃油急騰に対する備え</p> <p>・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの増大に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進する。</p>

活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁獲共済
-----------	---

4年目（平成34年度（2022年度））所得8%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1 ノリ・ワカメの品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藻類養殖業者は、漁業者の減少により漁場の利用が従来より柔軟に対応できる状況であるため、養殖ノリ・ワカメへの栄養塩の巡りが良好になるよう、空いた漁場を活用し養殖枠の間隔を広げて色落ち被害を抑制し、品質の維持向上に努める。 <p>2 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型底びき網漁業者は、1回あたりの曳網時間をこれまでの約40分から10分短縮し、マダイ、タコ類、カレイ類、ハモ等の漁獲物が網ズレなどにより低下する活力をより高い状態で保持し、単価の高い活魚として販売することに努める。（この取り組みにより1回当たりの曳網時間は短縮されるものの、1日の操業時間に対する曳網回数は増えることから漁獲量の大幅な増減は発生しない。） 特に高級魚であるマダイについて、漁業者は、「1枚の鱗もはがさない」をテーマに水揚げ時には1匹ずつ手作業で取り扱い、荷さばき所の水槽に活かしたまま移す。同じく高級魚のハモについても、水揚げ時には数匹ずつ籠にいれ、水槽に活かしたまま移す。 この取組により、漁協は、丁寧に取扱ったタイ・ハモを「浅野のタイ・ハモ」と銘打って認知度を広めるとともに流通量（出荷量）の増大を図るため、これまで3段階程度の大まかなサイズ選別と入札時に魚体確認を行なわない「大札」で入札していたマダイ・ハモについて、市場価格が特に高く取引される1~2kgサイズの品質の良いマダイ、同じく0.6~1kgサイズの品質の良いハモに特化して、従来の「大札」とは別に優先して選別する。また、入札方法も仲買業者が漁獲物を確認する「見買い」に変更して販売を行なうことで、品質の良い漁獲物を要求する大都市圏の高級魚取扱店舗への流通量を増大させることによって魚価の向上を図ることを検討する。 底びき網漁業者は、当地区で最も漁獲量の多いタコについて、1日で大量に獲れる時には、入札までに船内の魚槽で活力が低下したり斃死することがあるため、操業中に一旦帰港し岸壁等の活け網にて保管することで斃死や活力低下を防止させ、活魚出荷量を増大させる。 また、漁協は、タコの大量漁獲により単価の下落が著しい場合は、値崩れを防止するため、漁獲量制限等1人当たりの出荷量調整を行なうことを関係漁業者と検討する。 また、底びき網や刺網等で漁獲されるタコ類、マダイ、カレイ類、スズキ、イカ類をはじめとした全魚種について、漁業者は、漁船上での規格外の傷物や活力の低下したものなど品質の悪い魚の目視選別を徹底したうえで共販市場にかけ、市場作業の効率化（選別等荷さばき作業時間の短縮）により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して進める。 <p>3 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員が参加し、海底耕耘の作業を行うことにより、栄養塩低下の対策として漁場環境の保全にかかる活動を推進する。また、全漁業者は、ヒラメやオニオコゼ、マコガレイ、クルマエビ、ガザミの種苗放流等の栽培漁業や資源管理等の取り組みに参加し、資源の増大を図る。
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 省燃油活動の推進 ・漁業者全員は、漁場までの減速航行、定期的な船底清掃及び船の上架を行い、燃油消費量を削減する。</p> <p>2 競争力強化型機器の導入 ・小型底びき網漁業者及びのり養殖業者のグループは、競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用して、現在使用中の機関より 10%以上燃油消費量を削減できる省エネ機関に換装する。</p> <p>3 燃油急騰に対する備え ・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの増大に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁獲共済</p>

5年目（平成35年度（2023年度））所得10%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 ノリ・ワカメの品質向上 ・藻類養殖業者は、漁業者の減少により漁場の利用が従来より柔軟に対応できる状況であるため、養殖ノリ・ワカメへの栄養塩の巡りが良好になるよう、空いた漁場を活用し養殖枠の間隔を広げて色落ち被害を抑制し、品質の維持向上に努める。</p> <p>2 魚価の向上 ・小型底びき網漁業者は、1回あたりの曳網時間をこれまでの約40分から10分短縮し、マダイ、タコ類、カレイ類、ハモ等の漁獲物が網ズレなどにより低下する活力をより高い状態で保持し、単価の高い活魚として販売することに努める。（この取り組みにより1回当たりの曳網時間は短縮されるものの、1日の操業時間に対する曳網回数は増えることから漁獲量の大幅な増減は発生しない。） 特に高級魚であるマダイについて、漁業者は、「1枚の鱗もはがさない」をテーマに水揚げ時には1匹ずつ手作業で取り扱い、荷さばき所の水槽に活かしたまま移す。同じく高級魚のハモについても、水揚げ時には数匹ずつ籠にいれ、水槽に活かしたまま移す。 この取組により、漁協は、丁寧に取扱ったタイ・ハモを「浅野のタイ・ハモ」と銘打って認知度を広めるとともに流通量（出荷量）の増大を図るため、これまで3段階程度の大まかなサイズ選別と入札時に魚体確認を行なわない「大札」で入札していたマダイ・ハモについて、市場価格が特に高く取引される1~2kgサイズの品質の良いマダイ、同じく0.6~1kgサイズの品質の良いハモに特化して、従来の「大札」とは別に優先して選別する。また、入札方法も仲買業者が漁獲物を確認する「見買い」に変更して販売を行なうことで、品質の良い漁獲物を要求する大都市圏の高級魚取扱店舗への流通量を増大させることによって魚価の向上を図ることを検討する。 底びき網漁業者は、当地区で最も漁獲量の多いタコについて、1日で大量に獲れる時には、入札までに船内の魚槽で活力が低下したり斃死することがあるため、操業中に一旦帰港し岸壁等の活け網にて保管することで斃死や活力低下を防止させ、活魚出荷量を増大させる。 また、漁協は、タコの大量漁獲により単価の下落が著しい場合は、値崩れを防止するため、漁獲量制限等1人当たりの出荷量調整を行なうことを関係漁業者と検討する。</p>
---------------------	---

	<p>また、底びき網や刺網等で漁獲されるタコ類、マダイ、カレイ類、スズキ、イカ類をはじめとした全魚種について、漁業者は、漁船上での規格外の傷物や活力の低下したものなど品質の悪い魚の目視選別を徹底したうえで共販市場にかけ、市場作業の効率化（選別等荷さばき作業時間の短縮）により、漁獲物の活力維持や鮮度低下を抑えた出荷を漁協と協力して進める。</p> <p>3 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員が参加し、海底耕耘の作業を行うことにより、栄養塩低下の対策として漁場環境の保全にかかる活動を推進する。また、全漁業者は、ヒラメやオニオコゼ、マコガレイ、クルマエビ、ガザミの種苗放流等の栽培漁業や資源管理等の取り組みに参加し、資源の増大を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>1 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者全員は、漁場までの減速航行、定期的な船底清掃及び船の上架を行い、燃油消費量を削減する。 <p>2 競争力強化型機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型底びき網漁業者及びのり養殖業者のグループは、競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用して、現在使用中の機関より 10%以上燃油消費量を削減できる省エネ機関に換装する。 <p>3 燃油急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの増大に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進する。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁獲共済

(5) 関係機関との連携

<p>取組の効果が十分発揮されるよう、行政（兵庫県、淡路市）、系統団体（兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県漁業共済組合等）、地域団体（淡路水交会、西浦水交会、淡路市漁業振興協議会）と連携を図る。</p> <p>また、根拠地漁港における水産物供給基盤機能保全事業、水産物供給基盤整備事業及び海岸堤防等老朽化対策事業の計画策定及び事業実施に協力し、当該漁港の維持管理を推進することをもって漁家資産及び背後地住民の生命・財産を守る事に協力する。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成30年度（2018年度）：
	目標年	平成35年度（2023年度）：

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>平成31年度から35年度の漁協業務報告書記載の漁業種類別水揚金額の5年平均値に(一社)淡路水交会在が申告指導に用いた漁業種類別所得標準表の所得率を参照し漁業所得を算出した。なお、標準表</p>

に記載のないノリ養殖漁業は、平均的な当該漁業者の所得率を聞き取り漁業所得を算出した。
 目標年の所得額の算出は、5年間の取組において経費の削減が見込まれることから、漁業種類ごとに平均的な生産を行っている漁業者を抽出し、所得額を聞き取ることで向上率を確認する。

(3) 所得目標以外の成果目標

タイ・ハモの単価	基準年	平成30年度(2018年度): タイ 1,297 (単位) 円/kg ハモ 873 (単位) 円/kg
	目標年	平成35年度(2023年度): タイ 1,362 (単位) 円/kg ハモ 917 (単位) 円/kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

基準年は、平成25～29年度の平均、目標年は基準年の5%向上。
 丁寧に取り扱ったタイ・ハモを「浅野のタイ・ハモ」と銘打って認知度を高めるとともに市場価格が高く取引されるタイ、ハモを見買いによる販売を行うことにより単価向上を図る。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	省エネ機関を導入することにより、漁業支出の低減を図り、漁業所得を確保する。
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図り、漁業所得を確保する。
水産多面的機能発揮対策事業	干潟等の保全活動等を行うことにより漁場環境の改善を図る。
漁獲共済	予期せぬ不漁などに備えることにより、漁業収入の確保を図り、漁業経営の安定を図る。